

# 2025年度 夏季セミナー

## 『放射線科医に聞いてみよう！～読影のコツと医師の本音～』

公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部  
学術委員会

### 「頭部領域の読影」

奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座 中野 亮汰

頭部は、治療の遅れが生命予後や神経学的予後に大きく影響する重要な領域であり、画像診断においても迅速かつ正確な評価が求められる。本講演では、主に急性期疾患に焦点を当て、現場での迅速な判断に役立つ知識の向上を目的とする。まず、脳血管障害について、脳梗塞の超急性期所見や出血性病変の特徴を解説し、見落としを防ぐために注意すべき画像評価のポイントを示す。次に、硬膜外血腫、硬膜下血腫、脳挫傷、びまん性軸索損傷など、頭部外傷に関連する各疾患の画像所見と読影のポイントを説明する。さらに、脳腫瘍や感染症における典型的な画像所見を紹介する。本講演を通じて、診療放射線技師が撮影時に生命予後に関わる緊急性の高い疾患を的確に捉え、迅速に臨床へ繋げることで、診療の質の向上に貢献することを目指す。

### 「胸部領域の読影」

奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座 山田 彩

胸部画像診断において、緊急性の高い疾患の早期発見は患者の生命予後に直結する重要な課題である。本講演では、特に注意すべき STAT 画像の所見として、緊張性気胸や破裂リスクの高い動脈瘤を中心に解説する。また、“five killer chest pain”とされる大動脈解離、急性心筋梗塞、肺塞栓、食道破裂、緊張性気胸の画像所見についても詳述する。これらの疾患には血管性病変が多く、造影 CT が撮像されることが多いが、単純 CT でも大動脈瘤破裂に伴う血腫、大動脈解離の血栓閉鎖した偽腔や石灰化の偏位、肺動脈内の新鮮血栓を示唆する高吸収域などが診断に寄与する場合がある。そのため、造影 CT だけでなく単純 CT にも着目することが重要である。本講演では、緊急性の高い胸部領域の疾患の画像所見やその pitfall について概説する。

### 「腹部領域の読影 1」

奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座 堀内 克俊

腹部画像診断の実践的知識を習得するための講演である。消化管および生殖器系(男性)の正常変異と代表的疾患、特に小児特有の所見や STAT 読影時の気をつけるべき異常に焦点を当て、典型的画像所見、鑑別診断、読影チェックポイントを解説する。各症例を通して、Pitfall や効率的な読影手法を学び、臨床現場で迅速かつ的確な判断を下すための実践的アプローチの習得を目指す。

### 「腹部領域の読影 2」

奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座 立入 哲也

本講演では、肝胆膵領域・泌尿器領域・産婦人科領域・血管疾患における STAT 読影の実践的知識を習得す

ることを目的とする。救急診療において迅速な画像診断が求められるこれらの領域では、適切な読影能力が診断精度や治療方針に直結する。本講演では、各領域における代表的な疾患や緊急対応が必要な病態を取り上げ、典型的な画像所見、鑑別診断のポイント、見逃しを防ぐためのチェックリストを詳しく解説する。特に、緊急性が高く見逃しが許されない致命的な異常所見に焦点を当て、読影時の **Pitfall** や効率的な判断手法について共有する。さらに、臨床現場で即座に活用できるアプローチを症例を交えながら解説し、実践的な読影能力の向上を目指す。